



道徳的価値の自覚を深める道徳の授業の工夫 ー読み物資料の分割提示・表現活動を通してー

与那原町立与那原東小学校教諭 照屋 オリエ

1 研究のねらい

道徳の時間、「危ないので廊下を走らないようにしましょう。」と学習した。ところが、チャイムが鳴ったとたん、廊下を走っていく児童がいる。それは一体なぜ。急ぎの用事？いつもの癖？いろいろ理由は考えられる。しかし、それだけではないかも知れない。

授業を通して、廊下を走らないことがどれだけ大事なことが分かっていったか。自分は走らないようにするぞと考えたか。

一つ一つの価値を児童が本当に大切だと考え、楽しく心に響く授業がしたくてこの研究を行ってきた。

2 研究の特徴

資料の分割提示

読み物資料を提示するとき、主人公に問題が起こった時点で話をストップ。「あなたならどうしますか？」と課題を与え、考えさせた。児童は、課題を主人公に起きた人ごとではなく、「自分ならどうしよう。」「どうした方がいいか。」と真剣に考えた。

役割演技

登場人物になって、即興的に演技させた。自分が主人公ならこう言うだろう。こうするだろう・・・。

やることで、その時の主人公の立場や気持ちが分かってくる。見て話し合う中でどうすればいいのかわかになる。演技をし、見ることでよりリアルに考えさせることができた。そして何より、みんなが笑顔になった。

書く活動

書くことは自分の心と向き合うこと。しっかり見つめて考えること。書く活動を通して、学習した価値と自分の心を照らし合わせてじっくり考えることができた。

3 指導の実際



「あなたならどうしますか？」



主人公になりきって演技



自分の心と価値を照らして書く

4 結 論

資料の分割提示、役割演技、書く活動を取り入れることにより、児童は、価値を自分のこととして捉え、真剣に楽しく学習に取り組むことができた。その結果、道徳的価値の理解を深め、価値の自覚を深めることができた。

道徳的価値の自覚を深める道徳の授業の工夫

—読み物資料の分割提示・表現活動を通して—

与那原町立与那原東小学校 照 屋 オリエ

I テーマ設定の理由

今日的課題から

個人主義
人間関係が希薄
道徳性の欠如

今日、児童を取り巻く社会は、高度情報化、機械化等が進み便利で豊かになった。その半面、核家族化、少子化、個人主義の風潮の強まり等により、コミュニケーション能力が低下し、人間関係が希薄になっている。さらに、家庭や地域においては、教育機能が弱まり、基本的なしつけやモラル、善悪の判断、思いやり等基本的な道徳性が身につけていない児童の増加が指摘されている。学校でもいじめや不登校、自己中心的な児童やきれる児童の増加などが問題となっており、心を育てる道徳教育の一層の充実が求められている。

人間は誰しも、人間としてよりよく生きていきたいと願っており、道徳の時間は、その基礎となる道徳的価値について学び、自覚を深め道徳的实践力を育成していくことを目標としている。多くの児童が集まる教室で行われる道徳の授業は、多様な価値観に出会い、周りの人の立場や気持ちを理解させることができる大事な場である。そのため、内面的な葛藤や感動等を体験させ、道徳的価値の自覚を深められるように授業の工夫を行うことが大切である。

これまでの実践から

価値の自覚が
不十分

これまでの道徳の授業実践を振り返ると、読み物資料の読み取りを通して道徳的価値の追求を行ってきた。しかし、児童の本音に迫ることができず、話し合いは活発に行われたものの知識としての理解に留まり、道徳的価値の自覚を深めるには至らなかった。その原因として、指導過程の「展開前段」で、読み物資料の全文を通読するため、読み終えた時点で、結果（よいこと・やるべきこと）が分かっしまい、児童に課題意識を持たせることや、自分のこととして悩み、考えさせることができなかったことがあげられる。また、「展開後段」においては、学習した道徳的価値を、内面化させることが不十分で道徳的価値をこれからの生活に発展させていく気持ちを高められなかったことが考えられる。これらのことから、道徳的価値の自分のこととして捉え、自覚を深める授業の工夫を行う必要があることが分かる。

本研究において

資料の分割提示

役割演技

書く活動

本研究では、道徳の時間において、道徳的価値の自覚を深めるため、読み物資料の分割提示と、表現活動として、役割演技、書く活動の工夫を行う。

指導過程の「展開前段」では、読み物資料を分割して提示する。主人公に問題（葛藤）が起こった場面で立ち止まり、「どうしますか？」と発問し、主人公の問題を自分の問題として捉えさせ、解決方法を考えさせることで課題意識を持たせる。また、人は行うことによって気付くことも多い。そこで、役割演技を取り入れることにより、主人公の立場に立って体験させ、実感した気持ちを話し合い、自分と比較する中で、より深く自分の内面を見つめさせたい。「展開後段」では、自分の内面を見つめて、書く活動を行う。そうすることにより、道徳的価値を本当によいことだと捉え、これからの自分の生活や生き方に生かしていこうとする気持ちを持たせていきたい。

従来の道徳の時間の指導過程の展開の中で、このような工夫を行うことにより、道徳的価値の自覚を深めることができるだろうと考え本テーマを設定した。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

道徳の時間の指導過程において、以下のように工夫をすれば、児童が道徳的価値を自らのこととして受け止め、道徳的価値の自覚を深めることができるであろう。

- ① 読み物資料を分割して提示し、考える場を与えることにより、自分の問題として捉え道徳的価値について課題意識を持つであろう。（児童像：課題を真剣に考える。）
- ② 役割演技を行い、主人公と重ね合わせることで、相互交流が活発になり多様な価値に出会い、より深く自分の内面を見つめることができるであろう。
（児童像：演技をしたり見たり、他の意見を聞いたりして、考える、意見を言う。）
- ③ 自分の内面を見つめ、書く活動を取り入れることにより、道徳的価値を自分の生活に生かしていこうとする気持ちを培うことができるであろう。

（児童像：自分の考えをまとめることができる。）

2 検証計画

対象児童		： 4年1組（28人）		4年2組（28人）		教科：道徳		
検証場面		視点		検証の観点			検証方法	
授業実践 9回	展開前段階	提示	分割演技	① 自分の問題として捉え、道徳的価値について課題意識を持つために有効であったか。			・自己評価 ・観察	
	後展段階	展開	演技	② 深く自分の内面を見つめるために有効であったか。			・自己評価 ・観察	
				③ 道徳的価値を自分の生活に生かしていこうとする気持ちを培うために有効であったか。			・ワークシート ・観察	
アンケート		・ふりかえりまとめシート6時検証授業終了後（分割提示について） 9時検証授業終了後（役割演技について） ・事前（5月）事後（7月）道徳アンケート（意識調査）						
指導過程の展開で①～③の工夫を行ったことは、児童の道徳的価値の自覚を深めるために有効であったか。							・①②③の結果 ・アンケート	

III 研究内容

1 道徳的価値の自覚を深める授業について

道徳的価値 ↓ 人間らしいよさ	(1) 道徳的価値とは
	道徳的価値とは、人間としてよりよく生きるとはどういうことなのかを示すものであり、人間らしいよさの基本である。学習指導要領では、小学校6年間に児童が自分のものとして身につけ発展させていく必要がある基本的な道徳的価値は、内容項目として、小学校低学年15項目、中学年18項目、高学年22項目示されている。
自分との関わり で捉える	(2) 道徳的価値の自覚を深めるとは
	道徳的価値の自覚を深めるとは、児童が道徳的価値を自分との関わりにおいて捉え、考えを深めていくことである。児童が道徳的価値を知識として理解しているだけではなく、自分自身の生き方として本当に大切であると感じ、受け入れることである。自分とはどんな人間か、どんな人間になりたいかなど、自分の生き方に関わり、自らの行動や行為の基準となる価値観を自分の内面に問いかけ、その在り方を変えていく。このような心の動きが道徳的価値の自覚を深めることと捉える。
	(3) 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導のあり方
	学習指導要領解説によると道徳的価値の自覚については、次の三つを押さえる必要があるとされている。
	一つは、「道徳的価値についての理解」、同時に人間理解と他者理解を深める。
	二つは、「自分とのかかわりで道徳的価値が捉えられること」、合わせて自己理解を深める。
	三つは、「道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われていくこと」

これらのことが児童の実態に応じて主体的になされるよう、様々に指導方法を工夫していく必要がある。本研究では、道徳的価値を児童の心（内面）に強く刻み自覚させるために、読み物資料の分割提示と、表現活動として、役割演技、書く活動の3つの手立てを中心に行った。

図1は、本研究の道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導の基本構想図で、自覚の深まりと同時に自覚の深まった児童の姿を表したものである。

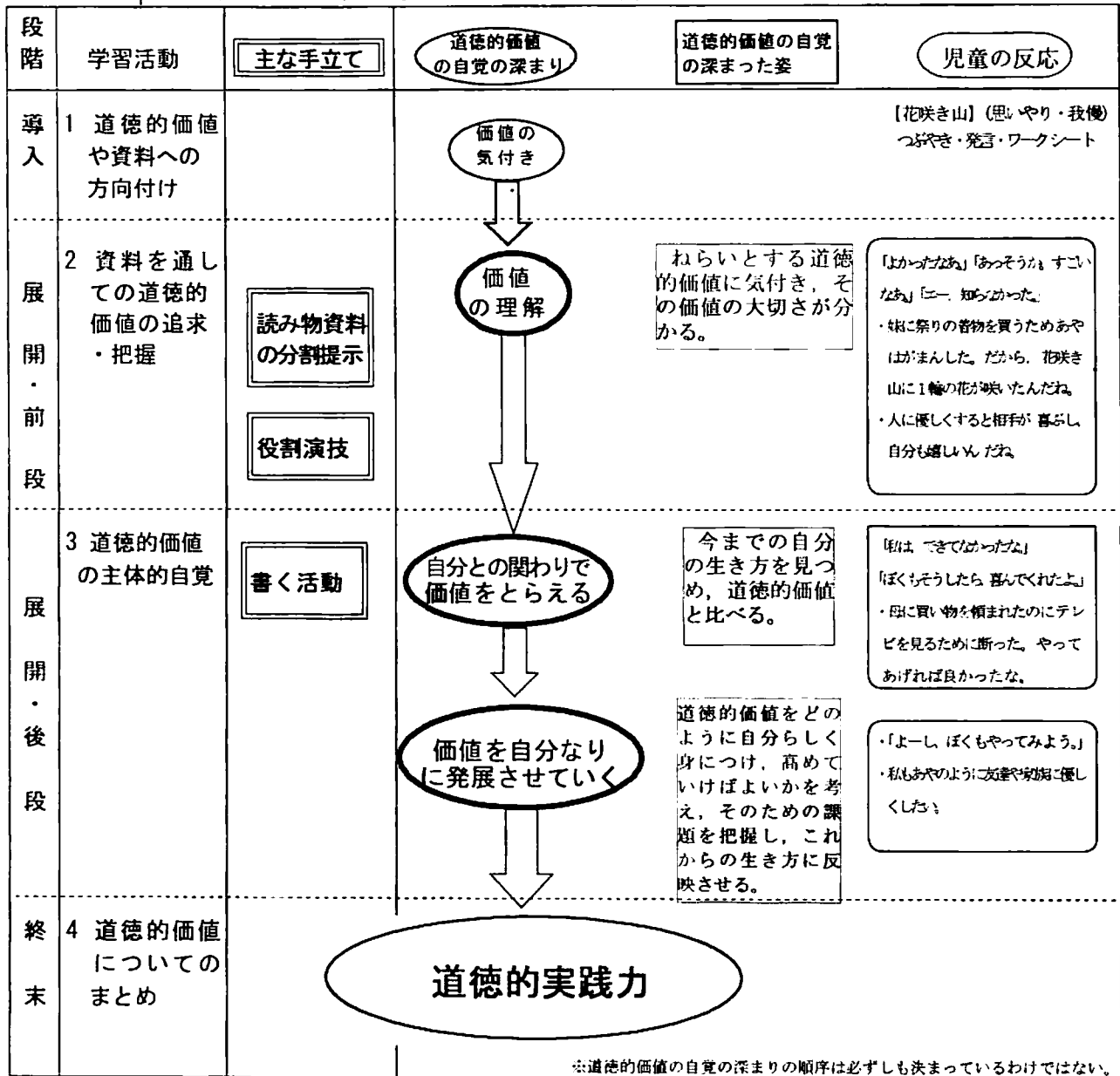


図1 道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導の基本構想と価値の自覚が深まった姿

2 読み物資料の分割提示について

(1) 読み物資料の分割提示とは

分割提示
↓
課題意識
↓
考える

読み物資料の分割提示とは、読み物資料をいくつかに分けて提示する方法である。主人公に葛藤や問題が起こった場面で分割して提示し、児童一人一人に課題意識を持たせ、どう解決・処理するかを考えさせる。人が生活をしていく中では、常に様々な問題があり葛藤場面、選択場面がある。主人公の選んだ解決方法をすぐに示すのではなく、自分ならどう解決していくか、どうすることがよりよいのかを考えさせるために読み物資料

【授業の組み立て方】

内容項目は？
↓
どの読み物資料
↓
分割する・しない？
↓
どこで分割？
↓
どんな提示方法？

を分割して提示する。主人公に起こった問題を、人ごとではなく自分の課題として捉えさせることにより、真剣に考えさせることができる。また、自分の考えと友達のことを比較し、よりよい解決策を考えさせていく中で道徳的価値の自覚を深めることができる。このように分割提示は、問題に直面させ課題意識を持ち、考えさせるために良い方法である。しかし、全ての内容項目（道徳的価値）や読み物資料に活用できるものではない。実際に授業を組み立てる場合は、まず初めに、内容項目（道徳的価値）や読み物資料の内容によって、分割提示が適しているか否かを判断する。分割提示を行うなら、児童に葛藤が生じ課題意識を持たせるためにはどこで分割するのか、何分割にするのか、どんな提示の仕方が効果的か等、適宜、吟味し選択する必要がある。

図2は、2分割提示の学習の流れの例である。展開前段で、分割した読み物資料を紙芝居等で提示し、課題を持たせ、話し合いや表現活動を行う。その後、資料の後半を提示し、再び話し合いや表現活動を行う。自分の考えと主人公の行動とを比較することは、道徳的価値をより深く捉えさせるために効果的である。

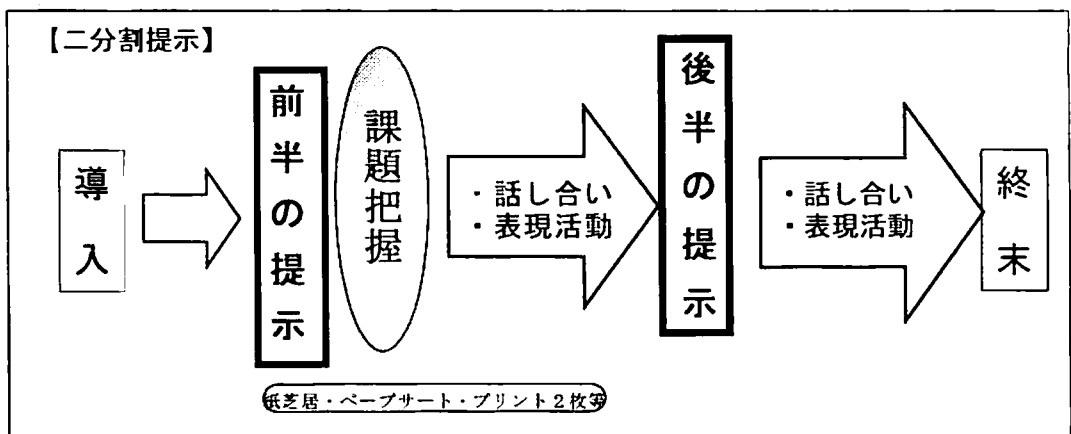


図2 分割の仕方と授業の進め方の例

(2) 分割提示にふさわしい道徳的価値や読み物資料

分割提示に相応しい読み物資料は、葛藤や問題場面があり、「どうしよう。」「どっちにしようか？」と課題意識を持たせられるものがよい。(資料例省略)

3 表現活動について

表現活動には、資料1のように様々な活動がある。表現活動は、読み物資料を読んだり話し合ったりするだけでは、把握しにくい人物の気持ちを、その人物の立場に立って具体的に理解させることができる。また、自分の心と向き合い考えをまとめるためにも有効である。表現活動を行うことによって、授業展開に変化が生まれるだけでなく、いろいろな角度から道徳的価値について考える機会を与えることができる。マンネリ化しがちな授業にいろいろな活動を組み込むことで、楽しく授業に参加させ、道徳的価値について真剣に考えさせることができる。

- ①特定の役割を与えた即興的な演技
- ②手紙や吹き出しなどに書く活動
- ③動きやせりふのまねをする動作化や劇化
- ④人形やペープサートなどを持って演技
- ⑤音や色、線や表情で表現
- ⑥実際の場面の追体験
- ⑦実験や観察、調査等による発表活動
(指導要領解説 道徳編より)

資料1 表現活動の種類

本研究では、表現活動として①の「役割演技」②の「書く活動」について研究を行う。

(1) 役割演技について

役割演技とは、児童が登場人物になりきって即興的に演技をしながら、その人物の立場に立ち、そのときの気持ちや考えを自分の言葉で語り、話し合う活動である。役割演技のよさは、実際に演技することによって、その人物の気持ちを共感的に理解すること

葛藤・問題発生
資料

即興的に演技
人物の気持ちを
共感的に理解

ができるところにある。役割を交代させることで、相手の立場に立って理解させることもできる。また、役割演技を通して考えたことを友達と話し合うことで、様々な価値に出会い自己の内面に問いかけ、どうすることがよりその場にふさわしいのかを考え主体的な自覚を深めることができる。さらに、仲間との相互理解や信頼感を深め、望ましい仲間意識を育てることに役立つ。

① 役割演技の基本的な授業の進め方

役割演技は、道徳の授業のどの段階でも活用することができるが、展開前段で行うのが一般的である。役割演技を有効に活用するために、展開での基本的な指導過程として、江橋照雄は以下のように述べている。

- ① 簡単なウォーミングアップを行う。
- ② 役割演技を展開するために必要な条件を設定する。
- ③ 役割や条件に即して、即興的に演技を行う。
- ④ 演技を中断して話し合ったり、条件を付け加えたりする。
- ⑤ ④で指摘された問題点や付け加えられた条件に基づいて再び演技を行う。
- ⑥ 再び中断して、さらに条件を追加したり、新しい役割を担った演者を登場させて役割演技を発展させる。
- ⑦ 再び演技を始める。
- ⑧ 演技を中断して「役割交代」をする。
- ⑨ 役割交代の後、再び演技を行い、ねらいとする価値について深く考えさせる。
- ⑩ 演技を終了し、話し合いを行う。
 - ・演者が感想を述べる。
 - ・演者が観衆から質問を受ける。
 - ・演者と観衆が意見を交換し合って、ねらいとする価値に迫る。

② 役割演技のためのウォーミングアップ

役割演技は、問題場面を考えるとときに、体験を通して実感させることができる有効な学習方法であるが、突然授業の中に取り入れても、効果は期待できない。それは、児童が演技をすることに慣れていることが重要だからである。そこで、次のことをウォーミングアップで、日頃から訓練、練習させる必要がある。

- ・児童が恥ずかしがらずに、演技することができる。
- ・児童が登場人物の環境、条件等から気持ちを考えることができる。
- ・その役になりきって行動や表情を表すことが出来る。
- ・見る側が演技を見て、行動や表情の意図、気持ちを考えることが出来る。

そして、何よりも真剣に学習に取り組む態度、どんなことでも言い合える温かな学級の雰囲気が素地としてなくてはならない。

ウォーミング
アップ
↓
演技に慣れる

学級の素地
↓
真剣な学習態度
温かな雰囲気

役割演技に慣れよう（朝の会を活用）

- ① おちやらかし（レベル1）
（勝ったとき・負けたときの表情）
- ② 進化ジャンケン（レベル1）
（いろんな動物になってみる）
- ③ 表情・どんな気持ち（1）（レベル2）
（教師の表情→児童が当てる）
- ④ 表情・どんな気持ち（2）（レベル2）
（児童の表情→その他の児童が当てる）
- ⑤ ジェスチャー・どんな気持ち
（レベル3）
（表情と行動を見て、その時の気持ちをグループで当てこする）
- ⑥ 二人で劇（レベル4）
（休み時間。今日は特別な日。体育館でもパソコン室でも遊べる。AさんBさんになり、二人で話し合ってどちらで遊ぶか決める。）
A：体育館派 B：パソコン派
- ⑥ 二人で劇（レベル4）
（算数が苦手な私が、初めて百点をとった。家で自分とお母さんになって会話。）

資料2 ウォーミングアップの練習

レベル1～4

自己の内面を
見つめて書く
↓
・価値の自覚を
深める
・自分の成長・
変化に気付く

十分な時間確保
書く形式の工夫

資料2は、本研究で朝の会を活用して
行ったウォーミングアップである。気持ち
を解きほぐし、楽しく演技できるよう
に、レベル1～4を行った（資料3）。

レベル1 みんなで楽しく体を動かす
レベル2 表情から気持ちを考える
レベル3 行動から気持ちを考える
レベル4 ペアでミニ劇をする

資料3 ウォーミングアップのレベル

(2) 書く活動について

書く活動は、自己の内面をじっくりと見つめ、心の奥にある気持ちを引き出し表現する活動である。授業で発言が苦手な児童も、静かに自分の心と向き合い、道徳的価値について考えを整理し、書くことで自分の思いを表現することができるため、全員参加、全員思考の授業を行うことができる。道徳的価値とこれまでの自分の行動を照らし合わせて振り返り、これからの行動にどう生かしていくのかを考え表現することは、道徳的価値の自覚を深めるために大切な学習活動である。さらに、書くことによって自分の考えと友達の考えを比べ、自分の成長や変化に気付くこともできる。

書く活動を行うときは、考えるための十分な時間を確保することが重要である。また、自分の気持ちや考えを自分の言葉で素直に書かせるためには、吹き出しや手紙等の書く形式や、発問、指示文等を工夫することも大切である。

書く活動は、心の動きが目に見える形で残せる唯一のものであり、それを道徳的価値の自覚の内面化が図れたかを判断する材料の一つとして用いることができる。しかし、書いたこと・書かれたことが児童の心の全てではないことを考慮する必要がある。

IV 授業実践

1 検証授業の実践

仮説を検証するために9回の授業を行った。前半の6回は、資料の分割提示の有効性を「分割のある・なし」、「2分割・4分割」について、4年1組と2組で検証した。後半の3回は、役割演技の有効性を4年2組で検証した。書く活動の有効性については全ての授業において実施し検証した。

時	月日	学級	検証内容	資料名	価値	検証結果（検証方法）
1	6/14（木） 2校時	2組	分割提示なし 書く活動	A 絵がきと切手	友情	分割提示ありの方が真剣に学習したと答えた子が多い。 （自己評価カード）
2	6/14（木） 4校時	1組	分割提示あり 書く活動	A 絵がきと切手	友情	
3	6/19（火） 2校時	2組	分割提示あり（4分割） 書く活動	B 価直 50円分	正直	どちらも真剣に考えた。4分割は多様な意見が出た。2分割は中心発問に絞って活発に話し合いが出た。（発言・観察・自己評価カード）
4	6/20（水） 2校時	1組	分割提示あり（2分割） 書く活動	B 価直 50円分	正直	
5	6/28（木） 2校時	1組	分割提示なし 書く活動	C お母さんの請求書	家族愛	分割した方がよく考えたという意見が多い。（自己評価カード）
6	6/29（金） 3校時	2組	分割提示あり 書く活動	C お母さんの請求書	家族愛	
7	7/3（火） 2校時	2組	分割提示あり 役割演技 書く活動	D フィンガーボール	親切	役割演技は楽しい、よく考えたと多くの子が答えた。 （自己評価カード・ワークシート）
8	7/5（木） 2校時	2組	分割提示あり 役割演技 書く活動	E 弱虫太郎	勇気	役割演技は楽しい、よく考えたと多くの子が答えたが、書く活動の時間が充分取れない。 （自己評価・ワークシート）
9	7/10（火） 2校時 本時	2組	分割提示あり（2分割） 役割演技 書く活動	H 通行止め	規則 尊重 公德 心	役割演技は楽しい、よく考えたと多数が答えた。書く時間が充分で価値についてじっくりと考え書く姿が見られた。観察・ワーク・自己評価

2 検証授業本時の指導

- (1) 主題名 きまりを守ろう 4－(1) 公德心・規則尊重
 (2) 資料名 「通行止め」 道徳副読本 4年生のどうとく(文溪堂)
 (3) 主題設定理由

- ① ねらいとする道徳的価値について(省略) ② 児童について(省略)
 ③ 資料について(省略)
 ④ 指導について

本時は、仮説の3つの視点について着目し、道徳的価値の自覚が深まったかを検証する。まず、1つ目は読み物資料の分割提示の有効性についてである。資料を2分割し絵話で提示する。資料の前半部分を話した後、「通行止め」とあるが、「あなたならどうしますか。」と発問し課題を持たせる。通行止めとはあるが、工事をしている人がいないので誰も見ていない。新しい足跡もある。回り道をせず、この近道を通りたい。しかし、もし滑って穴に落ちたら、自分の背より深い穴から出てくることは無理。弟にケガでもさせたら自分の責任になる。このように実際に通行止めの看板の前に立ったときの状況を考えて、この道を通るのか、回り道をして行くのか考えさせたい。また、資料の後半を提示し、主人公が強引に弟に回り道をさせたことを、父親が褒めることから、きまりを守ることの大切さを実感させたい。

次に、役割演技の有効性についてである。二人ペアになり、一人が主人公の役、もう一人が弟の役になる。即興的に演技をしそれぞれの立場からセリフを言い合う中で、近道をしたい、でも危険という葛藤する気持ちを出させたい。何組か、代表で全体の前で演技をして貰う。演技終了後、「今の気持ちはどうだろう。」「なぜ、今そうしたの。」と発問し、気持ちや行動の根拠を考えさせ、みんなで話し合いを深めさせたい。

ところで、本学級の児童は恥ずかしがり屋が多く、みんなの前で積極的に演技できる子は少ない。また、役割演技に慣れてないこともあり、多くのセリフを期待することもあまりできない。児童の演技が行き詰まってしまった場合は、教師がどちらかの役を行って進めていき、演技することへ抵抗感を持たせないように配慮したい。

最後に、書く活動の有効性についてである。展開前段で、なぜきまりがあるのか、きまりの必要性を学習した後、展開後段できまりを守るという観点から内面を見つめて書かせる。きまりの意味を知った上で、今までの自分見つめることで、これからの行動や生き方に生かしていこうとする気持ちを培うことが出来る考える。

(4) 本時のねらい

社会の約束やきまりがある理由を知って、進んで守ろうとする態度を育てる。

(5) 本時の授業仮説

- ① 読み物資料を二分割して提示し、前半を読んだ後、「あなたならどうしますか。」と発問し考える場を与えることで、自分の問題として捉え価値について課題意識を持つであろう。
 ② 役割演技を行い主人公や弟と自分を重ね合わせることで、相互交流が活発になり多様な意見に出会い、より深く自分の内面を見つめることができるであろう。
 ③ 道徳的価値(きまりを守る)について自分の内面を見つめて、書く活動を行うことにより、道徳的価値をこれからの自分の生活に生かしていこうという気持ちを培うことができるであろう。

(6) 準備するもの(省略)

(7) 本時の展開

過程	学習活動・主な発問	○留意点 ◆仮説の検証(評価方法) △本時の評価(評価方法)
----	-----------	-----------------------------------

3 本時の授業仮説の検証と考察

授業仮説について、児童のワークシート・観察をもとに検証する。表1は、本時の授業における学級全体の評価を、授業仮説の3つの視点についてまとめたものである。観察は、授業者以外の3人で行った。

表1 学級全体の評価（学級人数 28人）

視点	検証の観点	児童の姿	分析方法	分析
1 分割 提示	・読み物資料を2分割して前半を提示し、「あなたならどうしますか。」と考える場を与えたことで、道徳的価値についての課題意識を持つことができたか。	・課題を真剣に考える。 ※発表する。うなずく。 真剣なまなざし。 発表者を目で追う。	○観察(態度・表情・発言)	A 28人 100%
2 役割 演技	・近道をするか、回り道をするかを考える場面で主人公や弟の役になって役割演技を行うことで、相互交流が活発になり、多様な価値に出会い、より深く自分の内面を見つめることができたか。	・演技をしたり見たり、他の意見を聞いたりして、考える。意見を言う。 ※真剣に演技する。 演技者をしっかり見る。 意見を聞く。意見を言う。	○観察(態度・動作・表情・発言)	A 28人 100%
3 書く 活動	・道徳的価値（きまりを守る）について自分の内面を見つめて、書く活動を行うことで、これからの生活に生かしていこうとする気持ちを培うことができたか。	・自分の考えをまとめて書く。 ※真剣な態度で書く。 道徳的価値の自覚が深まった文が書ける。	○観察(態度) ○ワークシートの内容分析	B 19人 68%
基準 A: 80%以上 (22人以上) B: 50~79% (14~21人) C: 0~49% (3人以下)				

視点1「分割提示」について

課題意識を持た
一全員(28人)

展開前段では、読み物資料を2つに分割して提示した。資料の前半を拡大挿絵を掲示し語りで進めた。児童は、集中して話に聞き入り、「通行止め」の看板を前にして、「あなたならどうしますか?」という発問に対して、全員が真剣に考える姿が見られた(表1)。黒板の挿絵をじっと見つめたり、「私なら、通りません。なぜなら、雨で崩れやすくなっているからです。」と理由をはっきりと述べて発言したり、友達の発言にうなずいたりする姿が見られた。話の結末が分からないからこそ、自分ならどうしようかと真剣に考えさせることができた。分割提示は課題を持たせ、自分のこととして切実に考えさせるためによい手立てであると言える。

視点2「役割演技」について

自分の内面を見つ
めることができた
一全員(28人)

「通行止め」の看板を前にして、回り道をしようという主人公(姉)と、そこを通ると主張する弟になって役割演技を行った。演技をする児童は役になりきって発言し、見ている児童も真剣な態度で考え、意見を述べた。

☆1組目

弟「平気だよ。足あともついてるじゃないか。」姉「落ちたらどうするの。」
弟「大丈夫だよ。はしっこわたれば。」姉「転んだらあぶないよ。」弟「転ばないよ。」
姉「やっぱりあぶないよ。」弟「おれはわたる。ゆっくりわたる!」姉「・・・。」弟「・・・。」
姉「じゃそうすれば!!」弟「お姉ちゃんはどうするの?」姉「遠回りする。」
役と姉役がどちらも譲らずケンカになってしまった。そこで教師が、「2人は、別々に行こうとしている。これいいのかな?」と全員に問いかけたところ、フロアから「ダメ。落ちたら助ける人がいないよ。」「助けを呼ぶ人もいない。」とバラバラな行動を取ろうとする姉弟を非難する声があちこちからあがった。

☆2組目

弟「近道だよ。楽じゃん。だから行こうよ。」姉「近道でもあぶないでしょ。」
 弟「何で、早く着けるじゃん。楽だよ。通ればいいじゃん。」姉「通行止めだよ。」この姉の言葉に、
 いい説得だと言うようにうなずく児童がいる。弟「なんで一、(迷いつつも)近道じゃん。行こう
 よ。」この返事にフロアにもそうだよと同意する表情の児童が見られた。
 姉「だって、通行止めだよ。遠回りでも安全だよ。」弟「だって、近いじゃん。」姉「・・・」
 このように、弟と姉がどちらも相手の主張に押され心が揺らぎ葛藤する様子が表れた。

主人公に共感

役割演技をすることで、演じる児童は、主人公の姉や弟に共感して気持ちを重ね合わせることができた。また、見ている児童は、実際の発言を聞くことで、その場でどうするべきなのかを考え判断することができた。ただ、役割演技をした児童の考えや、フロアで見ている児童の感想を引き出すことで、さらに深く考えさせることができたと思われる。

視点3「書く活動」について

発展的な考えの文章 →68% (19人)

児童全員が、集中してワークシートに自分の考えを書くことができた。ワークシートの記述を見てみると、きまりを守る大切さに全員が気付くことができていた。しかし、これからの生活の中できまりを守っていききたいと発展的な考えや課題を書いた児童は 19 人 (68 %) であった (表 1)。

資料 4 は、児童のワークシートの記入例である。S さんの記述から、これまでの経験を振り返り今度からはきまりを守りたいと、学習した道徳的価値をこれからの自分の生活の中に生かしていこうという気持ちが書かれており、道徳的価値の自覚が深まったことが分かる。K さんは今までの自分の行動に触れておらず、これからの生活に生かしていくような言葉も見られないが、きまりを守る大切さをしっかりと捉えていることが分かる。

S さんの記述 (Vの段階)

私は、きまりは大切だと思います。でも、つい
 ついきまりをやぶってしまうことがあります。た
 とえば、学校で「ろうかを走らない」というき
 まりをやぶって走ってしまうことがあります。
 きまりは命にかかわることもあるので、今度か
 らは、学校や外でのきまりを守りたいです。

K さんの記述 (Ⅲの段階)

久美子さんはとっても大人っぽいことをした
 と思う。久美子さんが弟の手を怖い顔で引っ張
 らなかったら、弟は穴に落ちて命が危なかった
 かもしれない。弟は、久美子さんは、いじわる
 と思っているけど、弟にとって、とても勉強に
 なる行動をしていると思う。

資料 4 ワークシートの記入例

段階については、P. 57 表 2 を参照

V 研究の考察

研究の考察は、事前 (5 月)・事後 (7 月) の道徳アンケート、毎時間の授業のワークシート、毎授業後の自己評価、まとめふりかえりシート (1 回目: 6 時終了後、2 回目: 9 時終了後) をもとに行う。価値の自覚が深まったことを『楽しい』『真剣に考えた』の 2 つの視点とワークシートの文章の分析をもとに判断した。授業後の自己評価は「楽しい (4 点) ~ 楽しくなかった (1 点)」「考えた (4 点) ~ 考えなかった (1 点)」の 4 件法で回答させ、検証学級平均値から t 検定を行った。t 検定は 5 % 水準によるものとする。

1 読み物資料を分割して提示し、考える場を与えることは、自分の問題として捉え道徳的価値について課題意識を持たせるために有効であったか。

1 組と 2 組において分割提示の有効性を検証した。どちらのクラスでも、3 回ずつ授業を行った。分割提示なしの授業を 1 回、分割提示ありの授業を 2 回行った。分割提示なしの授業では、副読本の資料や紙芝居を最後まで通読し、話し合いをした。分割提示ありの授業では、前半の問題が起こった時点で話をストップし、「どうしますか?」と課題をもたせた。自分の考えを名前の磁石で黒板に表示させてから話し合う、ペアやグループで話し合うなど、資料の提示以外のことは出来る限り条件を揃えて授業を行い比較した。

分割提示は楽しい

↓

続きが楽しみ

分割提示は

真剣に考えた

↓

途中で切ったら

真剣になる

分割提示の有無で

「真剣に考えた」

で有意差あり

3回ずつの授業終了後のまとめのふりかえりシートで「話を全部読んでから話し合いをする場合と、話を半分で切った後、話し合いをする場合を比べてください。」と質問した。その結果、『楽しい』については、1組でも2組でも分割提示をする方が楽しいと答えた児童が多い(図3)。その理由として、「続きがどうなるか楽しみだから。」「後の話を考えるとウキウキする。」と答えており、興味を持って授業に臨んだことが分かる。

また、『真剣に考えた』についても、分割提示をした方がよく考えたと答えた児童が、1組では48%、2組では59%と多い(図4)。その理由として「途中で切ったら、真剣に考えるから。」「予想を立てたら気になるから。」と、課題を解決するために真剣に取り組んだことが分かる。

さらに、1組の5時(分割提示なし)と4時(分割提示あり)の自己評価をt検定にかけてみた。その結果、『真剣に考えた』の項目で有意差が見られた($p < .05$) (図5)。

資料5は、1組の4時(分割提示あり)の授業の児童のワークシートである。授業の中で主人公に自分を重ね合わせ葛藤したことが読み取れる。また、道徳的価値のよさに気づき、主人公が良い選択をしたと安堵した様子も表れている。児童はこれまでの経験から何がよいことなのかは、大体分かっている。でも、人には弱い気持ちもあり、分かっているでも実際に行動するのは難しいこともある。そこで、分割提示をし与えられた課題に対して、どうすべきなのか、どうすることが自分にとってよいのかを考えることで、よい判断をすることができる。その判断を下すまでの一連の思考が、道徳的価値の自覚を深めることにつながったと言える。

以上のことから、読み物資料の分割提示は、自分の問題として捉え課題意識を持たせるために有効であると言える。

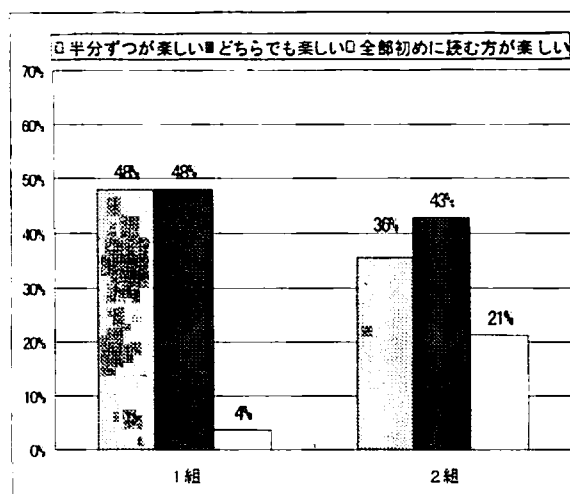


図3 分割提示の有無による楽しさ

(1組: 28人 2組: 28人)

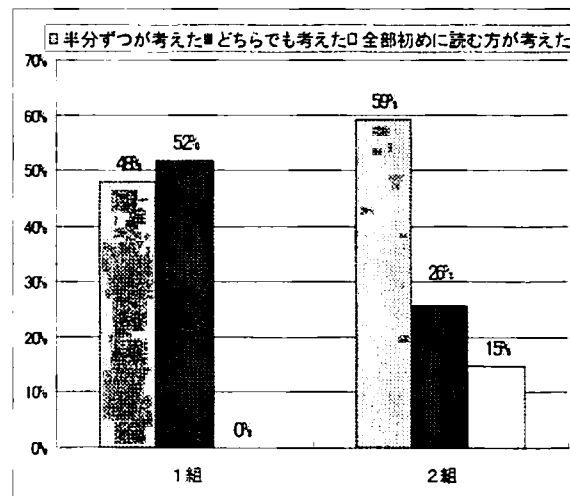


図4 分割提示の有無による考えの深まり

(1組: 28人 2組: 28人)

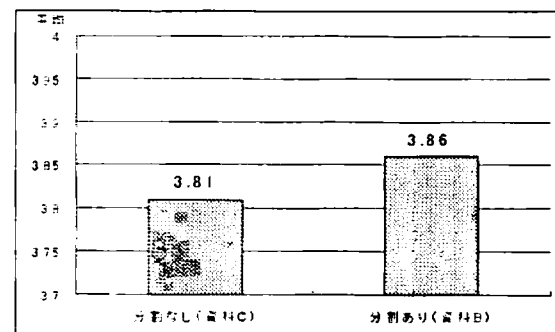


図5 今日の学習は真剣に考えることができましたか。

(自己評価の平均点の結果) 1組: 28人

4時【「正直」50円分】 Yさん
私は、今日の学習でいろいろなことを考えました。正直に言おうかなとか、やっぱりおこづかいが増えるから黙っておこうかなと、いろんなことを考えました。いろいろ考えたり、なやんだりしたけど、主人公が、最後はちゃんと50円返したのでよかったなと思いました。今日の勉強はとても楽しかったです。

資料5 児童のワークシート記入例

2 役割演技を行い、主人公と重ね合わせることは、相互交流が活発になり多様な価値に出会い、より深く自分の内面を見つめるために有効であったか。

役割演技は楽しい

役割演技の有効性を検証するために、2組で3回役割演技のある授業を行い、前時（6時・役割演技なし）と比較した。各授業後の自己評価（4件法）の平均値の結果を分析した。図6からも分かるように「楽しかったか」という問いに、役割演技がない6時よりも役割演技がある7時以降の平均点が高く、楽しく授業に臨んだことが分かる。また、役割演技をする授業ごとに、平均点が上がっており、興味や関心が高まっていったことが分かる。

役割演技で真剣に考えた

また、図7より、「真剣に考えたか」という問いにも役割演技がない6時より7時以降の役割演技をした方が平均点が高くなっており、真剣に考えたことが分かる。授業が7時、8時、9時と進むにつれて平均点も上がっており、真剣に考えた児童が増加している。

役割演技は「楽しい」「考えた」で有意差あり。

役割演技なしの6時と役割演技ありの9時でt検定を行った結果、『楽しい』『真剣に考えた』のどちらにも有意差が見られた（ $p < .05$ ）。

役割演技楽しい

→75%

役割演技考えた

→86%

図8は、まとめのふりかえりシート（9時終了後実施）で「役割演技をした後で話し合いをした時間と、話し合いだけの時間とを比べて下さい。」と発問した結果である。役割演技をした方が楽しいと答えた児童が75%、真剣に考えたと答えた児童が86%と圧倒的に高いことが分かる。その理由として

- ・実際にやってみる方が分かりやすい。
 - ・演技をしたら答えが見つけれられる。
- 等が書かれており、役割演技をした方が課題を直接的に感じ、必然的に答えが見つけれられることを実感したようである。

従って、役割演技を行うことは、多様な価値と出会い自分の内面と比較して見つめるために有効だと言える。

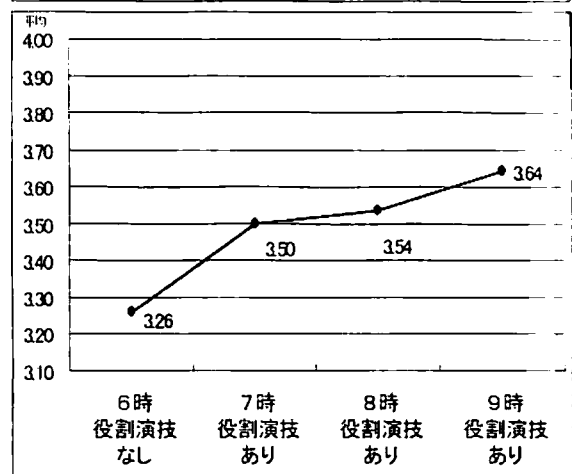
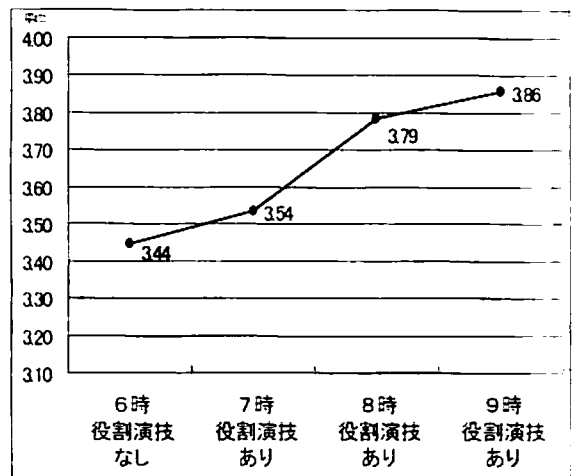


図7 今日の学習は真剣に考えることができましたか。（2組：28人）

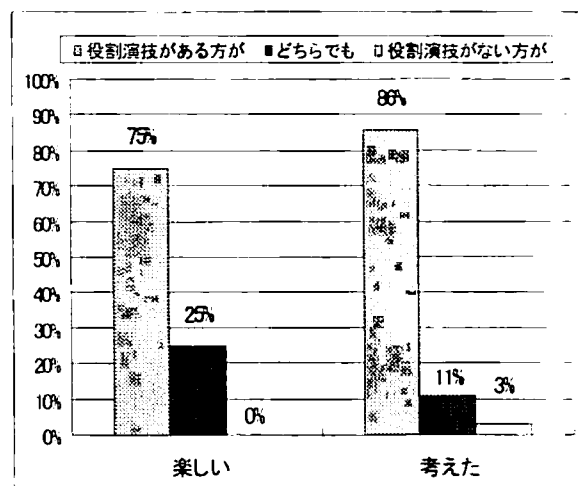


図8 役割演技の有無による「楽しい」「考えた」の比較（2組：28人）

3 自分の内面を見つめ、書く活動を取り入れることは、道徳的価値を自分の生活に生かしていこうとする気持ちを培うために有効だったか。

書く活動を

5段階で見取り

授業の展開後段で、毎時間、書く活動を実施した。2組で行った6回の授業のワークシートの記述から児童の変容を見取った。記述は5段階に分けて分類し、分析した（表2）。

図9は表2の基準に照らして分類したそれぞれの段階の割合である。

1・3・9時は、V段階の児童が6割前後おり、比較的多いと捉えられる。それは、展開前段で道徳的価値の理解が十分なされていたことが考えられるが、展開後段で、書かせる工夫をしたからだと言える。1時では、自分が友達ならどうするかと手紙形式で書かせた。3時と9時では、「今まで正直に行動してよかったと思うこと」、「きまりを守れなかったのはどんなときでしたか。」と視点を与えて内面を見つめさせる活動を取り入れた。このように形式や視点を工夫して書かせたことが、よい結果につながったと考えられる。

一方、6・7・8時のV段階の児童が少ない原因として、6時は、話し合い活動に時間が裂かれ、書く時間が不十分だった。7・8時は始めたばかり役割演技に時間が必要で、書くための時間を十分に確保できなかったことが考えられる。

資料6は、『正直』50円分のワークシートの記述例である。書くことによって、自分が嘘をついた経験を振り返り、正直でいたいという気持ちを新たに、これからの生き方を見付けることが出来たことが分かる。

これらのことから、自己の内面を見つめ、書く活動を行うことは、静かに学習を振り返り、道徳的価値をこれからの自分の生活に生かしていこうとする気持ちを培うための手段として有効であると言える。

「読み物資料の分割提示」「役割演技」「書く活動」を行うことは、道徳的価値の自覚を深めるために有効であったか。

事前（5月）・事後（7月）のアンケートの結果から考察する。

図10は、「道徳の授業は、今までの自分の行動を考えながら学習していますか」の質問に対する結果である。「よく考える」と「考える」を合わせると、5月の54%から7月は75%に増えている。これは、「読み物資料の分割提示」「役割演技」等により、道徳的価値の把握が十分になされ、自分を見つめることが出

表2 ワークシートによる児童の変容の見取り基準

- V：発展的な考えや課題を書いている
- IV：価値を自分に照らして捉えている
- III：価値を理解している。
- II：価値が理解できてない。
- I：書いてない

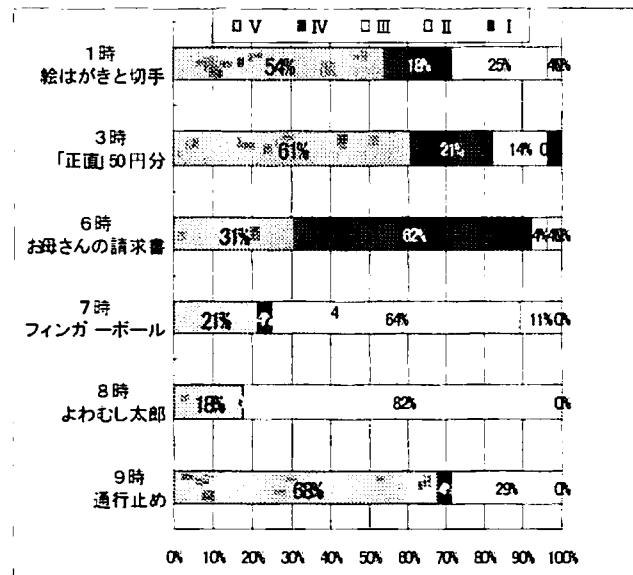


図9 ワークシート変容の見取り 各段階の割合 (2組：28人)

【正直】50円分 Tさん
 昼ご飯の時、カレーがテーブルに置かれていた。いたずらして、ボールを投げたら皿に当たって、カレーをこぼしてしまった。ガシャーンと音が鳴ったので、母さんが泣きつけてきた。「何があったの」と言ったので「弟がカレーをこぼした」とうそをついた。少したって、弟が泣くそうになったので、お母さんに正直に言おうと「もう、弟のせいじゃないでよ」と言って、一縷カレーを食べた。
 その日から正直に言おうと思っています。

資料6 児童のワークシート記入例

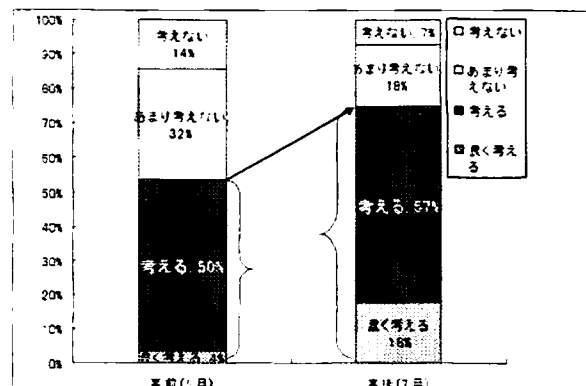


図10 道徳の授業は、今までの自分の行動を考えながら学習していますか。 (2組：28人)

来たからだと言えるが、自己の内面と向き合い、書く活動を行うことにより、道徳的価値と自分の日頃の生活とを結び付けて振り返ることができるようになったと考えられる。

図11は、「道徳の時間は好きですか。」の問いに対する結果である。「道徳の時間が好き」「どちらかと言えば好き」と答えた児童を合わせると、5月は79% (22人) だったのに対し、7月は93% (26人) に増えている。

仮説の3つの手立てを行ったことに加え、資料の提示の工夫 (紙芝居や絵話等)、発問によさぶり、話し合いの方法、説話、机の配置など様々な工夫を行った成果だと言える。

以上の事前 (5月)・事後 (7月) のアンケートの結果と研究の考察1、2、3より、「読み物資料の分割提示」「役割演技」「書く活動」を行うことは、道徳的価値の自覚を深めるために有効だったと言える。

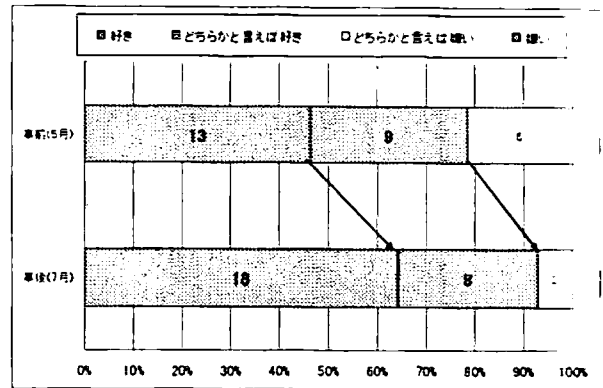


図11 道徳の時間は好きですか。(5月・7月)
(2組: 28人)

道徳の時間が好き
79%
↓
97%

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 「読み物資料の分割提示」を行うことにより、課題意識を持たせることができた (V-1)。
- (2) 「役割演技」を行うことにより、主人公と重ね合わせて、より深く自分の内面を見つめさせることができた (V-2)。
- (3) 内面を見つめて「書く活動」を行うことにより、道徳的価値を自分の生活に生かしていこうとする気持ちを培うことができた (V-3)。
- (4) 「読み物資料の分割提示」「役割演技」「書く活動」を計画的に取り入れることで、道徳の授業に楽しく真剣に取り組み、道徳的価値の自覚を深めることが出来ることが分かった。

2 課題

- (1) 分割提示に利用できる読み物資料の収集、作成。
- (2) 役割演技の効果的な活用方法。
- (3) 書く活動における視点の与え方。
- (4) 「読み物資料の分割提示」「役割演技」「書く活動」を計画的に取り入れた年間指導計画の作成。

〈主な参考文献〉

- | | | | |
|-------------|------------------------------|------|-------|
| 江橋照雄編著 | 『授業が生きる役割演技』 | 明示図書 | 1995年 |
| 真仁田昭 荒井邦二郎著 | 『4年生のどうとく・教師用指導書』 | 文溪堂 | 1989年 |
| 心の教育研究班 | 『道徳的価値の自覚を深める道徳学習指導の在り方』 | | |
| | 久留米市教育研究所 研究紀要52集 | | 2006年 |
| 千葉正司著 | 『道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導に関する研究』 | | |
| | 岩手県総合教育センター | | 2005年 |